

## 雑草との戦い

私たちは今、米の二期作に取り組んでいます。ただ、カンボジアで二期作を行うには、日本のやり方と同じようにはいきません。去年は2作目の栽培を乾季に行いましたが、それはあまりに水がなく今のところ無理だということがわかりました。そこで今度は、雨季の間に2作目を作ることを決めました。

右側にある写真は1作目の稲の様子です。ご覧いただいてもわかるように雑草が多くなってしまっています。6月から7月中旬にかけて芽を出した雑草が、雨が降り水を得たことで一段と勢いを増してしまいました。そこで草取りの作業をしなければならなくなりました。本来ならば水田には雑草は生えにくいものです。ある程度の水位が保たれることで雑草の発芽を防いでいるからです。

どんな作物栽培をするときも伸びすぎる雑草はいい影響を残しません。

- 雑草が作物に必要な肥料を吸い取ってしまうこと
- 伸びすぎた雑草は作物に必要な太陽の光をさえぎってしまうこと
- 雑草が繁茂することで害虫を増やしてしまうこと

特に肥料に関しては深刻な問題です。循環型の農業を目指し、ニワトリの飼育も行っていますが鶏糞の確保が未だできていません。現状は外部から鶏糞を購入させていただいています。その大事な鶏糞(肥料)が雑草に持っていかれないようにしなければなりません。そこで毎日時間を決めコツコツと手で除草を行いました。

ところで、そんな除草作業をしていると水田の状態に目がいかないはずがありません。私がビックリしたのは水中に生息する生き物たちでした。カエル



6月～7月にかけて目を出した雑草



雑草を取り終えた後水がたまるようになった水田。  
生育の勢いや葉の色も良い。

のような少々大型のものから、川エビ、メダカのような小さい魚、タガメ、オタマジャクシ、ヤゴやアメンボなど様々な小動物たちが生息しているのです。カメムシのような害虫もいましたが、それを捕食するクモだっています。このような生き物を間近で観察できるのは有機農業ならではのことで、そしてこれらは私たちを支えてくれる大事な仲間です。

さて、この後の2作目、もしくは来年の栽培では、今回のように雑草がはびこらないようにすることが1つの課題となります。その手段として考えていることがあります。

- 田植え前の代掻きを十分に行い、予め雑草を殺しておくこと
- 若く勢いのある苗を植え付け、雑草に負けないようにすること
- 田植え後、生育に合わせて水位を保つようにすること

カンボジアの人々には、植え付ける苗の状態やその植え方、その後の生育の勢いや葉の色、茎の増え方、そしてたくさん実をつけた穂の状態を見てもらい、私たちのやっていることが農場の周囲で栽培されているお米よりもよい状態であることを見てもらえるようにしたいと思います。

前回の「編集後記」に新しい日本人スタッフの紹介をさせていただき旨をお伝えしました。今回の締めくくりはそのスタッフからの自己紹介です。

皆さんこんにちは。このたびカンボジアの SAJ ファームで働くこととなりました、上井 裕一と申します。

経歴としましては2006年にワタミファームに入社。北は北海道から南は九州大分まで色々な農場を回らせてもらいました。大分の臼杵農場で自社ブランドの有機サツマイモを使用した焼酎臼杵夢見心地の生産に携われたことが一番の思い出です。

今回の赴任に際し、7、8月の2カ月間カンボジアの首都プノンペンで大学と個人レッスンで語学研修を行いました。発音が悪い等々しかられる毎日を過ごしておりました。9月から農場にて仕事を始めましたが、まだ片言で分からない単語もたくさんあります。農場のスタッフのチャンダー君や管理人さんに身振り手振りを交え、仕事の中でクメール語を教えてもらっています。

野菜ばかり扱ってきたのでお米を作るのも、鶏を飼うのも初めての体験です。飯島さんやスタッフのみんなに教えてもらいながら、孤児院の子供たちやカンボジアの人々が豊かに暮らしていけるように力になればと思います。よろしくお願いいたします。



## 編集後記

新しく上井君がカンボジアに無事到着しました。彼とはワタミファームでも一緒に働いたことがあり、心強い仲間です。これから一緒に作業をしていく中で知恵を出し合いながら、ときには意見をぶつけ合いながら作業を進めていくこととなります。なにとぞよろしくお願いいたします。

飯島